

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要
【サントミュージゼ】

1 開催概要

開催日時		令和 8 年 6 月 25 日(木) 19:00～20:10
開催場所		サントミュージゼ 多目的ホール
出席者	市民	19 名
	行政(市職員)	環境部長、資源循環型施設建設推進参事、 廃棄物対策課職員 2 名、 ごみ減量企画室職員 3 名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	資源循環型施設	資源循環型施設と現在のクリーンセンターの違いはどこか。	焼却施設という点是不会変わらないが、最新型の設備になり、臭気対策設備など周辺に迷惑がかからない施設を目指している。また施設規模が小さくコンパクトな施設となる。
2	資源循環型施設	上田市はごみ袋の価格が高いと言われているが、資源循環型施設の建設に伴いごみ袋の価格は変わるのか。	現在のごみ袋は収集運搬にかかる経費をもとに算出している。現在は 3 クリーンセンターが点在しているため収集運搬が短距離で済んでいるが、資源循環型施設に統合されると収集運搬距離が長くなり、経費も上がることが想定される。よって、まだ未定だがごみ袋の価格は変わる可能性もあるとご理解いただきたい。
3	処理方法(プラ)	動画内の説明で、収集されたプラスチックは分別・圧縮した後パレットになるという説明だったが、全てがパレットになるわけではないと思われる。混廃プラはどういう処理をされているか。	中間処理施設での作業は材質に関わらず圧縮して出荷するところまでで、その先は県外のリサイクル工場で再資源化している。全てを把握はできていないが、リサイクル工場で素材毎に分けられて適したものにリサイクルされるか、一部は熱源となっているものもある。

4	排出方法 (プラ)	プラごみを分別すると焼却炉でエネルギー不足となる、燃料の補助金もあり焼却処理の方が低コストであることから、可燃・プラ混合で出した方がいいという議論もあるが、上田市の考えは。	新施設移行後も、プラスチックごみは資源化する方針であり、現在と同様に燃やせるごみとプラごみは分別する方向でいる。
5	生ごみ出し ません袋	生ごみ出しません袋を以前使っていたことがあるが、宣言の内容を細かく言われ、窓口対応が怖かった印象がある。もっと楽しく気軽に取組めるよう、窓口対応をしていただけないか。	過去に不愉快な思いをさせてしまい大変申し訳なかったが、現在は懇切丁寧な対応に心掛けている。
6	ごみ減量ア ドバイザー	対応の姿勢でいえば、以前、ごみ出しのときなどごみ減量アドバイザーが立ち会い、厳しく指導していたこともあった。	令和5年度までは各自治連から選出されていたため、資源回収やウィークエンドリサイクルへの立ち会いも行っていたが、令和6年度からは公募により少人数となったため、全市的な活動となり、そのような活動はなくなった。
7	周知・啓発	3Rや5R、リフューズ、リデュースなど横文字(英語)が多用され分かりにくい。	多くの方にご理解いただけるよう言葉の選び方も気を付けていきたい。
8	その他	自治会回覧・広報など配布物が多いので削減してもらいたい。	必要な分はどうしても出てしまうが、できる限りご負担をかけないよう紙資源の節約も踏まえ、削減に向け努力してまいりたい。
9	その他	物流における梱包・過剰包装が多いと感じる。メーカーにパッケージの簡素化など要望をしていただけないか。	スーパーの担当者からも過剰包装による多量のごみに悩まされているという声は聞いている。ナフサの不足等もあり、メーカーも検討せざるを得ない状況にきていると感じる。

10	資源循環型施設	新施設の寿命はどのくらいを想定しているか。	今、事業者選定の段階であるが、その中で謳っているのは、20 年間はしっかり運転すること、その後 10 年間も使えるような形を考えると、であり合計 30 年を目安にしているが、できるだけ長く大切に使用したいと考えている。
11	焼却灰	焼却灰等を埋め立てる最終処分場が逼迫していると説明あったが、焼却灰を何か違う価値のあるものに作り直すなど考えはあるか。 他では竹や松、木材、米などと混ぜて何か使用できるものという動きが進んでいるため、企業とタイアップして考えたかどうか。	現在は一部建設用の砂などにリサイクルしているが、その他は埋め立てている。 リサイクル技術は日々進歩しているため、情報収集に努めてまいりたい。
12	その他	埼玉県日高市、太平洋セメント、富山県のプラスチックのリサイクル工場など、今話題となっている取り組みも参考に、市と企業で連携を進めてほしい。	情報収集に努め、最適な処理方法を探ってまいりたい。